

青梅市議会議員

おおせまち 37才 大勢待 としあき



[プロフィール]

1975(昭和50)年4月27日生
ねむのき幼稚園
青梅市立若草小学校
青梅市立霞台中学校
都立立川高等学校
青山学院大学経済学部
立教大学院社会学研究科
元IT企業社員
青梅市議会議員(1期目)

青梅市のごみ処理費用が40億円

9月定例会では、ごみ問題について一般質問をしました。青梅市の1年間のごみ処理費用は約40億円。市税が約200億円ですので、単純計算をすると、私たちの血税の約1/5がごみ処理に使われていることとなります。

一番の問題は、燃やすごみ(緑の袋)の中に紙類が多く含まれていることです。雑誌・雑紙類を資源として分別・リサイクルすれば、ごみ処理費用を抑えて負担を軽くすることができます。

私たち一人一人の少しの心がけで数億円単位の節約ができます。

紙ごみ分別ポイント

ごみ減量・リサイクル通信(10.2.15)より

① 雑誌と雑紙類はひもで束ねて資源ごみに出しましょう。



② 細かい雑紙も資源です。紙袋に入れて出しましょう。



雑誌・雑紙は「燃やすごみ」に入れない!



[お問い合わせ]

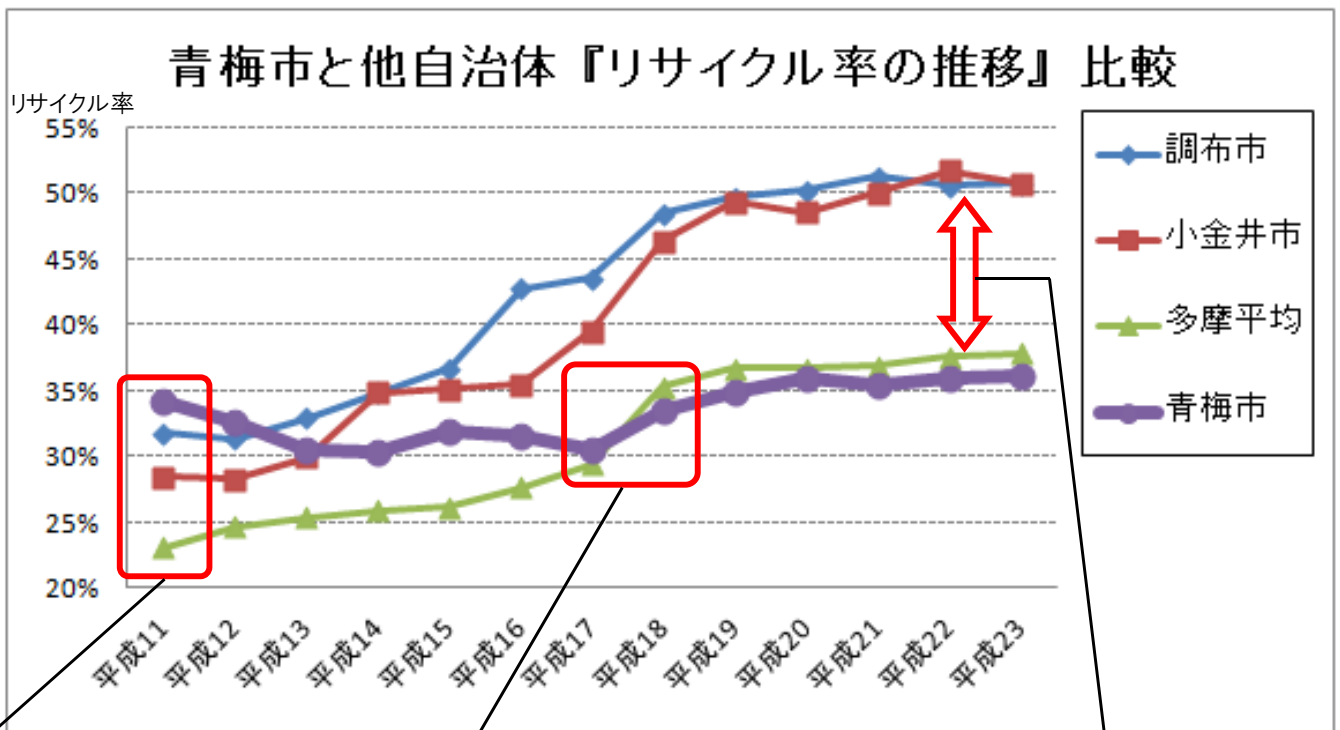
ごみのリサイクルについて裏面を参照

青梅市河辺町10-2-5-911 青梅市新町8-13-20 TEL : 080-6805-9236

FAX : 0428-31-7643 MAIL: t_ohsemachi@ybb.ne.jp HP: http://www.ohsemachi.net

青梅市のリサイクル率

青梅市は、平成11年にごみ収集の有料化をいち早く始め、当初は多摩地域でリサイクル率は第一位でした。青梅市は、多摩地域でごみ問題をリードする存在だったのです。現在は、他の地域に追い抜かれて17位。多摩の平均値も下回っています。トップを走る調布市・小金井市には約15%もの差をつけられています。しかし、これはある意味チャンスを示しています。リサイクル率の上昇の余地がまだまだ青梅市にはあるのです。市民ひとりひとりの取り組みにより、調布市・小金井市に追いついて、**多摩地域ナンバー1のリサイクル率に返り咲けば、環境の為になると同時に、青梅市のごみ処理費用も抑え、私たちの負担を減らすことができます。**



① 青梅市は、ごみ収集の有料化を多摩地域でいち早く始め、平成11年は多摩地域でリサイクル率は第1位

② 青梅市に続く形で、他自治体もごみのリサイクル対策に取り組む。青梅市は伸び悩み、多摩平均以下となる。

③ 調布市・小金井市には、リサイクル率で15%ほどの差をつけられている。追いつく余地は十分にあります。

提言

ごみの分別を徹底して、青梅市のリサイクル率を第1位にしましょう!!!

一人一人の心がけで、ごみ処理費用を数億円単位で節約しましょう!!!